



国連大学サステナビリティ高等研究所・笹川平和財団海洋政策研究所・環境省 主催
 「国連生態系回復の10年 -里海再生国際シンポジウム-」
 2022年2月9日（水） 15:00-17:50

2021年から2030年までの10年間は「国連生態系回復の10年」と位置付けられ、地球上の様々な生態系を積極的に回復・再生していくことが求められています。本シンポジウムでは、人と海との関係性により育まれてきた「里海」に焦点を当てながら、脆弱性の高い沿岸生態系の回復や再生について、国内外の事例を学びます。さらに、里海の再生の取組を支える我が国の施策を紹介し、生態系回復の10年における里海再生のスケールアップについて考えていきます。

<主催>

笹川平和財団海洋政策研究所、国連大学サステナビリティ高等研究所、環境省

<後援>

2030 生物多様性枠組実現日本会議（申請中）

<開催方式>

ハイブリッド／日英同時通訳付き

<プログラム>

15:00	開会・挨拶 角南篤（笹川平和財団 理事長） 山口しのぶ（国連大学サステナビリティ高等研究所 所長）
15:10	第1部 生態系回復の10年と里海について ・国連生態系回復の10年の概要（国連環境計画 八代真紀子） ・沿岸生態系と気候変動/生物多様性保全（海洋政策研究所 前川美湖） ・里海の保全と再生（国連大学サステナビリティ高等研究所 イヴォーン・ユー）
15:40	第2部 沿岸生態系回復の事例紹介—日本及び海外から— （モデレーター： 海洋政策研究所 赤松友成）

	<ul style="list-style-type: none"> ・恩納村の里海づくりーサンゴ礁の保全再生活動（恩納村漁業協同組合 山城正已、（一財）沖縄県環境科学センター 金井恵） ・イタリア・オルベテッロにおける地域の漁業者による生態系管理と保全活動（Montespertoli Ancient Grains 協会 グイド・グアランディ氏） ・志津川湾における里海保全活動（南三陸町自然環境活用センター 阿部拓三） ・協働によるマングローブ保全：フィリピン・アリータス地域における沿岸コミュニティのレジリエンス強化の鍵（フィリピン大学ロスバニョス校 デイクソン・ゲバナ氏） <p>質疑応答（15分）</p>
16：35	休憩（10分）
16：45	<p>第3部 パネルディスカッション</p> <p>モデレーター 渡辺綱男（国連大学サステイナビリティ高等研究所）</p> <p>パネリスト 小林誠（環境省自然環境局自然環境計画課）</p> <p style="padding-left: 2em;">川崎俊正（国土交通省港湾局海洋・環境課港湾環境政策室）</p> <p style="padding-left: 2em;">金子守男（水産庁漁場資源課生態系保全室）</p> <p style="padding-left: 2em;">山城正已</p> <p style="padding-left: 2em;">阿部拓三</p>
17：45	閉会挨拶 奥田直久（環境省自然環境局 局長）
17：50	終了